

令和5年8月21日

美里町議会
議長 鈴木宏通 殿

教育、民生常任委員会
委員長 柳田政喜

教育、民生常任委員会委員派遣報告書

本常任委員会は、所管事務調査を終了したので、美里町議会委員会規則第2条の規定により下記のとおり報告する。

記

1. 調査年月日 令和5年7月26日（水）～7月27日（木）
2. 調査視察地 埼玉県富士見市
3. 参加委員 柳田政喜、伊藤牧世、平吹俊雄、
吉田二郎、鈴木恵悦、村松秀雄、鈴木宏通議長
4. 随員職員 齊藤美穂
5. 調査事項 子どもの貧困と食事

所管事務調査研修報告

1. 「目的」

国が平成24年度に実施した「国民生活基礎調査」の結果では、日本の子どもの貧困率は高く、6人に1人が貧困の状況にあることがわかった。また、美里町においても、平成29年11月に「子どもの生活に関する実態調査」を行い、7人に1人が貧困の状況にあると報告されている。この調査からすでに6年が経過しており、近年の経済情勢「コロナ禍の行動制限による経済格差の拡大」「ロシアのウクライナ侵攻や世界的異常気象、急激な円安による物価高騰」などにより、現在、子どもたちが置かれている状況が大変心配される。

子どもの貧困対策先進地においては、「子ども食堂」「居場所」などの取り組みが行われており、委員会として調査すべきと考えテーマとした。

2. 「研修事項」

- 1) 夢つなぐ富士見プロジェクト+（プラス）～富士見市子どもの貧困対策整備計画～の経緯や進捗状況
- 2) 気づき・つなぐマニュアルについて
- 3) 子ども未来応援基金について
- 4) 子ども未来応援センター（子育て世代包括支援センター）の詳細について

3. 「研修内容」

○埼玉県富士見市

概況

人口 約11万人 児童人口 約1.4万人（12.7%）

世帯数 約5.4万世帯

担当部署 富士見市子ども未来部子ども未来応援センター

- 1) 夢つなぐ富士見プロジェクト+（プラス）～富士見市子どもの貧困対策整備計画～の経緯や進捗状況
 - ・平成28年8月に「子どものいる世帯の生活実態調査」を行い、平成29年3月に「富士見市子どもの貧困対策整備計画」を策定、専門員を配置し「気づき」「つなぐ」「連携して支援する」体制を整えた。
 - ・子どもの貧困対策に向き合う民間企業、NPO、町会などの地域組織や団体と行政が一体となって取り組む市民組織として、平成30年6月に「子ども未来応援ネットワーク会議」が発足された。
 - ・具体的な支援「子どもの夢つなぐ市民運動」として「寄付型自動販売機」「街頭宣伝」「募金、啓発活動」「子ども食堂」「フードパントリー」が民間主体で行われている。

- ・「子どもの夢つなぐ市民運動☆ふじみ」のサポーター支援、育成を行い、サポーターによる居場所活動が行われている。
- ・令和4年～令和6年に延長した。

2) 気づき・つなぐマニュアルについて

- ・見えにくい貧困を理解し皆の気づきで困っている子どもの支援につなげるため、マニュアルを作成し、区長、民生委員の会合などで配布している。

3) 子ども未来応援基金について

- ・富士見市社会福祉協議会が寄付金を募り、基金を設立し、子どもの未来を応援する団体に、準備金20万円、活動する団体の事業に対し年15万円の上限で補助を行っている。現在22団体中10団体が活用している。

4) 子ども未来応援センター（子育て世代包括支援センター）の詳細について

- ・「子どもの総合相談窓口」として、社会福祉士や保健師などが妊娠期から子育て期にわたる相談、支援を行っている。

◇ 母子保健関係

- ・妊娠に関すること、子育てに関すること、子ども食堂に関すること、各種助成制度について

◇ 子どもや若者の相談、支援

- ・若者のための学び直し相談、子どものための養育費相談、おしゃべり☆ふれいす

4. 「まとめ」

子ども食堂、フードパントリー、居場所などの取り組みは、行政が直接行っているところはほとんどなく、NPOなどの民間団体が中心に行われている。

富士見市では、担当部署に専門職員を配置し、民間企業、NPO、町会などの地域組織や団体と貧困問題を協議する「子ども未来応援ネットワーク会議」を立ち上げ、民間と行政が一体となり、問題解決に取り組んでいる。わが町でも、美里町社会福祉協議会や、ボランティア団体により、フードバンク、子ども食堂などの取り組みを行っているが、町全体での貧困に対する取り組みについて検討する余地がある。

美里町としても専門職を配置し、民間との情報交換や意思疎通を通じ「気づき」「つなぐ」「連携して支援する」体制の構築が望まれる。